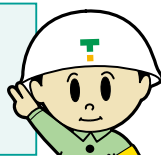


検査員の現場報告1



もしもの前に見つける！電気のパトロール

郡山事業所 志賀 拓也

定期点検でトラブルの芽を早期に発見し、電気事故を未然に防いだ事例を紹介します。

【状況】

3月中旬のよく晴れた午前11時頃、定期点検中に電柱の一番上にある雷対策の設備（避雷器）の電線が外れているのを発見しました。この時点では停電などのトラブルは一切起きていませんでした。

【調査】

発見後、双眼鏡を用いて詳しい現状調査を行いました。結果、外れていた電線は「6600Vの高圧電線」で、大変危険な状態でした。もしこのまま放置して大雨が降ったり、強い風が吹いて電線が他の設備に接触したりすれば、施設全体の停電や、周辺地域を巻き込む深刻な電気事故につながる恐れがあるため、一刻も早い対応が必要な状況でした。

【原因】

電線が外れていた避雷器は2004年製であり更新推奨時期である15年を経過していたため、長年にわたり雨や風、台風などの振動を受け続けたことによる「経年劣化」で電線が外れたものと推測されます。避雷器は、屋外に設置されているため、どうしても時間の経過とともに接続部に負荷がかかってしまいます。

【復旧】

作業を安全に行うためには、施設全体を停電させる必要がありました。まず、お客さまへそのまま放置することの重大なリスクと現在の状況を丁寧に説明し、安全に避雷器を電路から切り離す作業を行うため、緊急停電への了承をいただきました。

同時に、停電作業における安全確保とお客さまをお待たせする時間を少しでも短くするため、急遽応援者を手配し、万全の体制を整えた上で電気を一時的に止め、避雷器のスイッチ（開閉器）を開放して安全を確保しました。応援者とのチームワークにより作業はスムーズに進み、無事に仮復旧を完了しました。

今後の対策として、避雷器内蔵タイプの高圧気中開閉器への更新をおすすめしました。



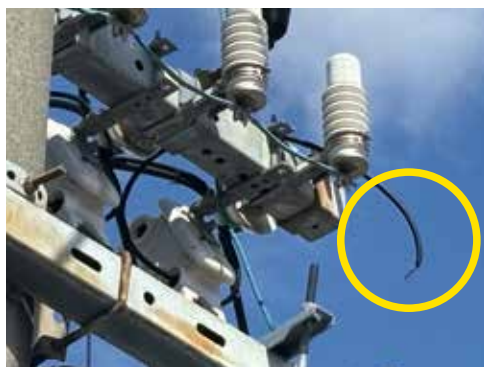
【お客さまの声】

作業終了後、お客さまから「突然のことで驚きましたが、どれほど危険な状態なのかを写真や分かりやすい言葉で丁寧に説明してもらえたので、安心して停電に協力できました。電気事故になる前に見つけて、しかもこれだけ早く対応してくれて本当にありがとうございました」という、大変温かく、励みになるお言葉をいただきました。お客さまのご理解と迅速なご協力があったからこそ、全員が安全に作業を終えることができました。

【まとめ】

今回の事例は、検査員による定期的な外観点検が、大きな電気事故を未然に防ぐ最高のディフェンスになることを改めて証明してくれました。

私たちはこれからも、目に見えない電気のリスクを先回りしてブロックし、お客さまがいつでも安心して電気を使える「当たり前の日常」を、プロの眼と素早いチームワークで守り続けてまいります。



外れていた電線